

9. 広島大学文書館



文書館の建物

基本データ：

開設年月日：2004年4月1日

所在地：広島県東広島市鏡山1-1-1（東広島キャンパス）

HPアドレス：<http://home.hiroshima-u.ac.jp/hua/>

刊行物：『広島大学文書館紀要』『広島大学文書館外部評価報告書』など

所蔵資料点数：約127,000点

専任職員：准教授1名、助教1名、専門職員1名、事務補佐員1名

調査日 2011年8月3日

場所 広島大学 文書館

お話しいただいた方 文書館館長 小池聖一氏

文書館大学史資料室長 小宮山道夫氏

調査者：稲葉浩幸・上崎哉（記録）・藪下信幸（写真）

1. 「貴学における大学アーカイヴズについて」

1-1 設置目的・設置経緯 ——大学史編纂後の措置と森戸辰男関係文書の整理・公開事業——

広島大学文書館は2004年4月に学内共同教育研究施設として設置された。文書館設置の経緯として、50年史編纂事業、森戸辰男関係文書の整理・公開事業、情報公開法の制定・施行の3つをあげることができる。

広島大学では1998年より50年史編纂事業が本格的に始動し、この50年史編纂事業で収集した史料を整理・保存するための機関が必要となった。また、広島大学初代学長森戸辰男関係文書が1995年に結成された森戸文書研究会によって整備が進められ、その資料を公開するための資料室の設置が検討されていた。一方、2001年情報公開法の施行により、行政文書が廃棄される危険性が生じたため、文書の管理・保存をする体制を確立する必要があった。これらの3つのことが要因となり、文書館が誕生した。

1-2 組織形態 ——公文書室と大学史資料室との2室体制——

広島大学文書館の組織としての最大の特徴は、公文書室と大学史資料室の2室体制を採用していることである。公文書室は大学の公的記録を、大学史資料室は森戸辰男関係文書を



公文書室の法人文書

はじめとする大学関係者の個人資料や諸団体の資料、広島大学の沿革に関する記録、大学史に関わる公刊物等をそれぞれ所管している。

スタッフは兼任の館長が1名、専任教員2名、専門職員1名、事務担当の事務補佐員1名、その他に非常勤の事務補佐員、アルバイト学生数名で構成されている。

1-3 活動内容

文書の収集は、文書館と財務・総務室総務グループの合同作業によって実施されている。すなわち、文書館の法人文書の移管作業に財務・総務室総務グループも同行し、当該年度に保存期間を満了した保有文書のすべてについて、同グループとともに現物確認を行い、文書館がそれらについて移管するかどうかの選定を行う、という方式を導入している。

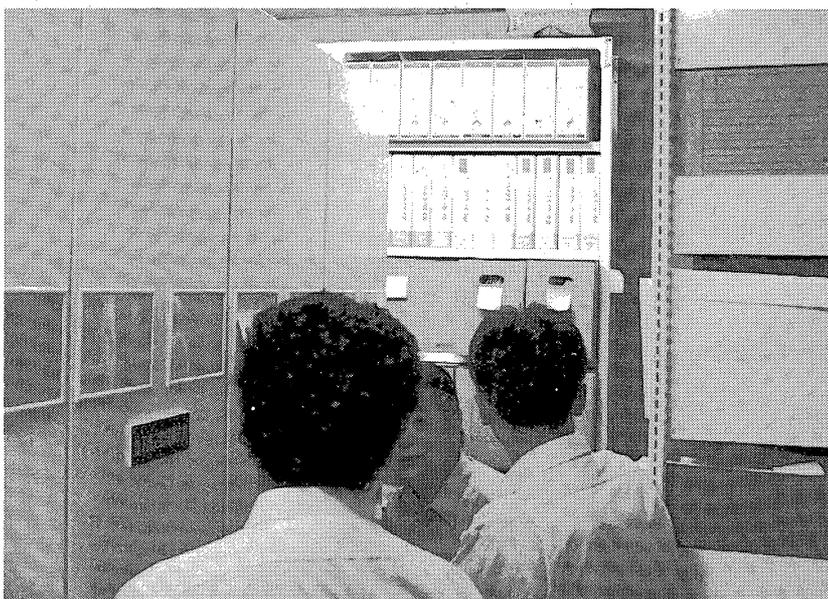
文書の公開は閲覧室にて行われており、毎週月曜～金曜日の9:30～16:30の利用が可能となっている。

展示活動は展示場を設営した企画展示を毎年2～6回行っている。しかし、一定しない場所での企画展示は文書館スタッフにとって負担が大きく、展示室創設が今後の課題である。

自校史教育では、文書館が「広島大学の歴史」を教養教育の選択必修プログラムである総合科目のひとつとして提供している。開設初年度は41名の受講登録者でスタートした本講義は、2011年度で11年目を迎え、976名が受講するマンモス講義となっている。なお、2011年3月に自校史教育の10年間の歩みを詳細に記載した『広島大学自校史教育実施報告書2001～2010（上巻）』が刊行された。

2. 「貴学にとっての大学アーカイブズの意義」について

1点目は、法人文書の管理機関として機能することによって、大学事務組織の効率化をサポートすることにある。具体的には財務・総務室総務グループとの協力により、文書管理システムを導入した。



大学史資料室の書庫

そして、このシステムによってデータベース化され、移管された法人文書は、文書館閲覧室で公開されており、情報公開機関としても文書館は機能している。

2点目は、大学の個性を具体化するため、建学の精神と理念の継承を図る目的で、初代学長森戸辰男の記念文庫と理念「平和を希求する精神」を示すものとして、平和学術文庫を設置している。

3点目は、オープンキャンパスでの展示を通じて入学前から、在学中の授業「広島大学の歴史」を経て、卒業後の校友会での展示まで、大学の構成員である学生、そして卒業生の全過程に関与しており、広島大学への関心・帰属意識・アイデンティティの向上に力を注ぎ、次世代へ受け継がれていくことを狙いとしている。

3. 「国公立大学・私立大学における大学アーカイブズの意義」について

国立大学の場合、地域社会への貢献が重要な責務としてある。例えば、広島大学文書館では広島県前知事や広島市長、また広島大学出身の被爆者の方に対してオーラルヒストリー事業を行っている。また、広島大学の前身校である広島高等師範学校出身の作家・梶山季之の文庫を設置するなどアーカイブズが地域の連携に寄与している。

一方、私立大学の場合、アーカイブズを展開するときには、創設者の個性や意思、理念が重要で、そこに回帰する部分を持っている大学はそれが大学にとっての強みとなる。また、OB・OGを活用しながら、大学の広報的活動を行うことで大学へ貢献したり、大学のある地域に働きかけ、地域特性を活かした情報を発信することで大学と共にある地域の振興へ資することになる。

調査を振り返って

広島大学文書館については、キーパーソンである館長や専任教員の熱意ある活動に加えて、地方国立大学の社会的責務としての地域研究、特に世界で最初の被爆地であるヒロシマの平和活動とのリンケージが文書館としての重み、レゾナードルを強めている印象を受けた。近畿大学にアーカイブズを設置する場合には、単に学内の過去・現在の記録の集成のみでなく、関係地域における社会的貢献の大きさという対外的視点を持つことも重要なのではないかと感じられた。

(稲葉浩幸)